



42

読書への招待  
トロッコ

芥川龍之介

ねらい

- ① 情景を押さえながら、人物の心情の変化を読み取ろう。
- ② 主題を読み取ろう。

# ウォーミングアップ



読解の道しるべ

場面展開と情景描写から分かる心情に注意して読もう。

現在	回想					
場面7	場面6	場面5	場面4	場面3	場面2	場面1
生活に疲れた現在、あの薄暗いやぶや坂のある道が思い出される。 (現在の良平)	家の門口に駆け込み、良平は大声で泣き続けた。 (家に着き、不安から解放される)	良平は草履も羽織も脱ぎ捨てて、暗くなる一方の道を走り続ける。 (家を目指して必死に走り続ける)	西日の光が消えかかる頃、一人で帰らなければならないことを知り、帰り道の遠さに絶望し、泣きそうになりながら走り出す。	十日余り後、別の土工たちに手伝いを許され、トロッコを押し回して乗ったりして楽しむが、海を見て、あまりに遠く来すぎたことに気づく。	二月初旬、良平は初めてトロッコに乗った。しかし、土工に見つかり、怒鳴られる。 (初めてトロッコに乗った喜びと吐かれた記憶)	八つの良平は、毎日、村外れへトロッコを見物に行った。 (トロッコへのあこがれ)

「読解の道しるべ」を参考にして書こう。

① この小説は、家族を持ち、東京で働くときに体験した \_\_\_\_\_ にまつわる出来事を思い出すという、回想の形式で書かれている。

② この小説は、トロッコの動きや周囲の \_\_\_\_\_ 描写に登場人物の心情が重ねられているところに特徴がある。

漢字・語句を確認しよう。

1 線の読み仮名を書きなさい。

- ① 車で荷物を運搬する。
- ② 勾配が急な坂を上る。
- ③ 薄暮の気配が漂う。
- ④ 人柄を褒められる。
- ⑤ 爪先立ちになる。
- ⑥ 草履をそろえる。
- ⑦ 有頂天になる。
- ⑧ 足袋をはく。
- ⑨ 新郎新婦の入場。
- ⑩ 乳飲み子を背負う。
- ⑪ 崖の上に登る。
- ⑫ 朱筆を入れる。

- ⑬ 頑固な人を説得する。 □ ⑭ 正月には門松を立てる。

## 2 線の片仮名を漢字で書きなさい。

- ① 三月シヨジュンに雪が降る。 □ ② 転んでドロだらけになる。  
 □ ③ シキサイ豊かな絵。 □ ④ 休憩時間におカシを食べる。  
 □ ⑤ 毛布をかけて寝る。 □ ⑥ 子供の頃のキオク。  
 □ ⑦ 仕事のジャマをする。 □ ⑧ ボールをける。

## 3 次の各問いに答えなさい。

- (1) 次の語句の使い方が正しいものを後から一つ選び、記号で答えなさい。
- ① 有頂天  
 ア 友達の裏切りを知って、怒りが有頂天まで達した。  
 イ 去年優勝して有頂天になっていたら、今年は初戦で負けた。  
 ウ まじめに勉強したので、成績が有頂天になった。  
 エ 我が家で有頂天に背が高いのは兄だ。
- ② 無造作  
 ア 母は庭の花を切って、無造作に花びんに生けた。  
 イ 赤ん坊が無造作な顔で笑っている。  
 ウ 災害の警報には無造作に対処しなければならぬ。  
 エ 失敗しないように無造作に仕上げをした。

- ③ おもむろに

ア 風邪をひいたので、おもむろに病院へ行った。  
 イ 雨は降ったが、おもむろにかさを持っていなかった。  
 ウ おもむろに気に入った服が一着もなかった。  
 エ 一同を見回しておもむろに口を開いた。

- (2) 次の——線部の語句の意味として最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

□ ① 猫がすばやく池の金魚をとつたのを見てあつけにとられる。  
 ア 感心する。 イ がっかりする。  
 ウ 驚き、あきれられる。 エ 腹を立てる。

□ ② 私の絵を見た友達は、取って付けたようなお世辞を言った。  
 ア 満足している様子。 イ わざとらしい様子。  
 ウ ごく自然な様子。 エ 丁寧な様子。

□ ③ くさりを切って逃げ出した犬がどうなったか、気が気でない。  
 ア 気持ちがいらいらする。 イ 混乱してわけがわからない。  
 ウ 気が狂いそうになる。 エ 気になって落ち着かない。

- (3) 次の語句の類義語として最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

□ ① 勾配  
 ア 傾斜 イ 傾向  
 ウ 高度 エ 曲折

□ ② 念じる  
 ア 心配する イ 喜ぶ  
 ウ 祈る エ 恐れる



## 練習問題 1

教科書 P. 212 ②. 3 ~ P. 214 ②. 4

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

著作権の関係で見本 PDF では表示していません。

20

15

10

5

II 二人がどんな外見であるかが分かる部分を文中から二つ探し、書き抜きなさい。

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

□(3) ———線③「とうとうこらえきれずに」とありますが、このときの良平の気持ちを述べたものとして最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア いつまでも押し続けられるように、登り道が続けばいい。

イ 押すのに疲れてきたから、早くトロッコに乗りたい。

ウ 男たちは黙ったままだが、怒っているのだろうか。

エ いつまでも押し続けたいが、「もういい」と言われるのではないかと心配だ。

( ) ( )

□(4) ———線④「線路はもう一度急勾配になった」ことは、このときの良平にとってどんな意味を持ちますか。最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 良平が男たちの役に立つ存在となる。

イ 良平の力ではどうにもならなくなる。

ウ 良平が男たちの足手まといになる。

エ 良平が自分の家からどんどん遠ざかることになる。

( ) ( )

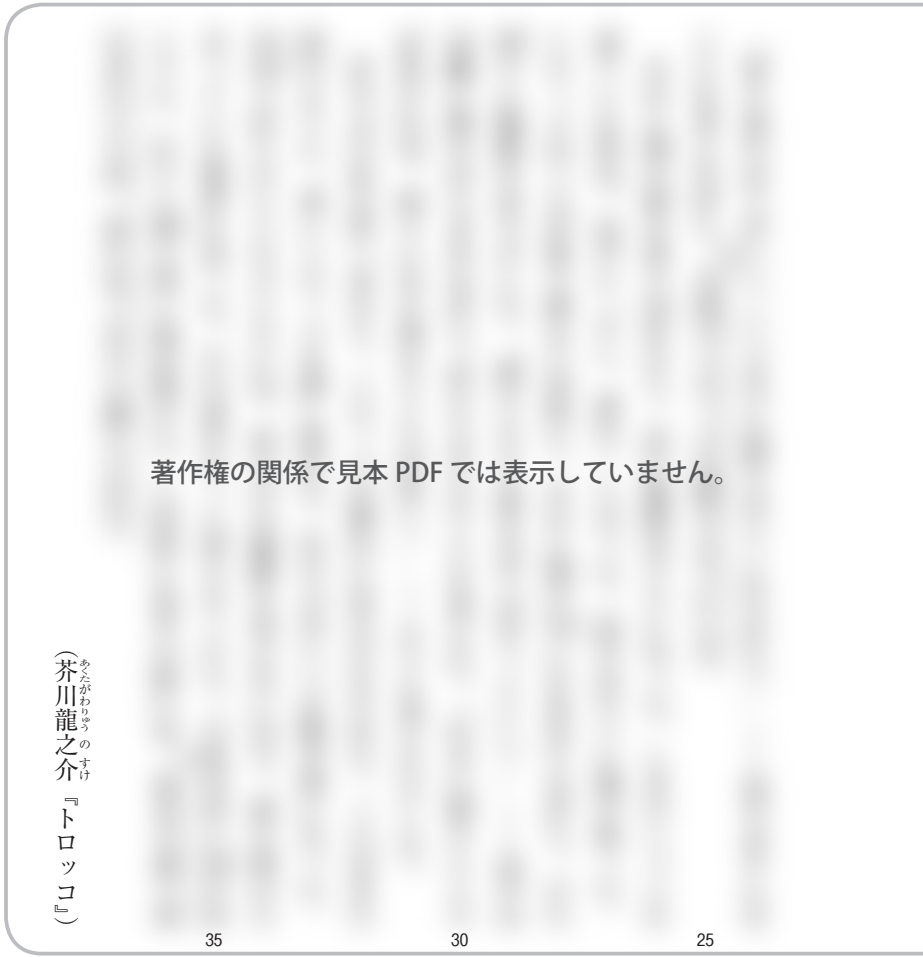
□(5) ———線⑤「両側のみかん畑に、黄色い実がいくつも目を受けている」とありますが、この表現から受ける印象として最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

□(1) 線①「このトロッコ」とは、どのトロッコを指していますか。文中から書き抜きなさい。

(2) 線②「二人とも若い男だった」について、次のⅠ・Ⅱに答えなさい。

Ⅰ 良平は二人にどんな印象を持ちましたか。文中から二つ、それぞれ六字で書き抜きなさい。

□	□
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----



(芥川龍之介のすけ 『トロッコ』)

35

30

25

- ア 明るさ
- イ ひもじさ
- ウ わびしさ
- エ せつなさ

( ) ( )

□(6) 線⑥「全身でトロッコを押すようにした」とありますが、このときの良平の気持ちを三十字以内で書きなさい。

-----	-----	-----
-----	-----	-----
-----	-----	-----
-----	-----	-----
-----	-----	-----
-----	-----	-----
-----	-----	-----
-----	-----	-----
-----	-----	-----
-----	-----	-----

□(7) 線⑦「あまり遠く来すぎたことが、急にはつきりと感じられた」について、次のⅠ・Ⅱに答えなさい。

- Ⅰ 何を見たときに、このように感じたのですか。文中から五字で書き抜きなさい。
- Ⅱ このときの良平の心情として最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

-----
-----
-----
-----
-----

( ) ( )



# 練習問題 2

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

教科書 P. 213 2. 36 ~ P. 215 2. 6

著作権の関係で見本 PDF では表示していません。

20

15

10

5

い。


□Ⅱ 良平のいらいらが、土工への態度として表れているところがあります。その態度について述べた次の文の□□に入る言葉を文中から書き抜きなさい。

土工が良平に 

--	--	--	--

 をくれたとき、 

--	--	--	--

 お

礼を言った。

□(3) ——— 線③ 「心はほかのことを考えていた」とありますが、例えばどのような考えていたのですか。文中から十二字で書き抜きなさい。


(4) ——— 線④ 「茶店の前には……消えかかっている」について、次のⅠ・Ⅱに答えなさい。

Ⅰ 西日の光が消えかかっているのを見て、落ち着かない良平はどんなこと

- I 良平はなぜいらいらしたのですか。その理由を**四十五字以内**で書きなさい。
- (2) ——— 線②「良平はひとりいらいらしながら」について、次の I・II に答えなさい。

- (1) ——— 線①「おもしろい気持ちにはなれなかった」のは、なぜですか。最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。
- ア とても長い時間トロッコを押し続けてきたので、もうあきてしまったから。
- イ 遠くへ来てしまった不安が大きく、早く帰りたい気持ちでいっぱいだったから。
- ウ トロッコを押し始めた頃に比べると、土工たちが親切ではなくなったから。
- エ 美しい景色に目を奪われ、トロッコのことなどもうどうでもよくなったから。

著作権の関係で見本 PDF では表示していません。

(芥川龍之介のすけ 『トロッコ』)

30

25

- (5) ——— 線⑤「無造作に」を良平の立場から言い換えたものとして最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。
- ア 良平がトロッコを押し、遠くまで行きたいと思っていることにも気づかないで
- イ 良平がたった一人で来た道を帰ることなど、大したことではないかのよう
- ウ 良平が二人を手伝ってトロッコを押ししたことなど、なんの役にも立たなかったとも言えない
- エ 良平が二人のことを外でずっと待っていたことを、当然のことだとも言えない

をしましたか。二つに分けて書きなさい。

- II ——— 線④は視覚に訴える表現ですが、文中には嗅覚に訴える表現もあります。その一文を文中から探し、その初めと終わりの四字を書き抜きなさい。

□	□
---	---

# 定期テスト対策

教科書 P 210 ~ 219

実施時間のめやす ↓ 20分

得点

／ 100点

Ⅰ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

著作権の関係で見本 PDF では表示していません。

20

15

10

5

□ (1)

——線①「あっけにとられた」とあることから、良平が今までどんなつもりでいたことが分かりますか。二十字以内で書きなさい。(15点)


(芥川龍之介 あくたがわりゅうのすけ 『トロッコ』)

40

35

30

25

- (2) ———線②「泣いてももしかたがないと……思った」ときの良平の気持ちの説  
明として最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。(10点)  
ア 期待を裏切られてがっかりしている。  
イ 無事に家に帰れるだろうかと不安になっている。  
ウ 一人で帰るしかないと覚悟を決めている。  
エ これまでの自分の行動を反省している。( )
- (3) ———線③「懐の菓子包みが……捨ててしまった」とありますが、ここから  
分かることとして最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。  
(10点)  
ア 良平が、自分の身に起きていることにまったく気づいていないこと。  
イ 良平が、今日一日のいまわしい出来事を忘れようとしていること。  
ウ 良平が、一刻も早く家に帰り着くことを最優先に考えていること。  
エ 良平が土工たちをうらみに思い、悔しさを物にぶつけていること。( )
- (4) ———線④「左に海を感じながら」という表現から、良平のどんな様子が分  
かりますか。最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。(10点)  
ア 海の見える場所を確認しながら慎重に帰り道を走っている様子。  
イ 海を見る余裕がなく、ひたすら前を見て走り続けている様子。  
ウ 海を見つめることで、泣きなくなる自分の気持ちなをなぐさめている様子。  
エ 海の見えるところまで来たことで、少しほっとしている様子。( )
- (5) ———線⑤「そのときも……とうとう泣かずに駆け続けた」ときの良平の気  
持ちとして最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。(10点)  
ア 誰もいないと泣いても助けてもらえない。  
イ まだ家に着いたわけではないから、走り続けなくてはならない。

チャレンジしてみよう

80	50								

🔑 **思考・表現** 『トロッコ』の最後に、現在の良平が「そのときの彼を思い出すことがある」と書かれています。このときの良平の心情はどのようなものであるとあなたは考えますか。五十文字以上八十文字以内であなたの考えを書きなさい。

- (6) ———線⑥「良平はどうとう大声に、わっと泣きださずにはいられなかった」とありますが、それはなぜですか。二十字以内で書きなさい。(15点)
- ウ 泣いたら二度とトロッコに乗れなくなってしまう。  
エ 村の近くで泣くと、人に見られては恥ずかしい。( )
- ② 次の——線の読み仮名を平仮名で、片仮名を漢字で書きなさい。(3点×10)  
□① 甘い菓子。( ) □② 乳飲み子。( )  
□③ 地面を蹴る。( ) □④ 服を掛ける。( )  
□⑤ 草履をはく。( ) □⑥ キオクに残る。( )  
□⑦ 砂をウパンする。( ) □⑧ 成果をホめる。( )  
□⑨ 八月のシヨジユン。( ) □⑩ 高いガケ。( )
